

留学報告書
～夢に見た世界～

ノースセントラル大学
外国語学部（長期）

私はアメリカ、イリノイ州に位置するノースセントラル大学へ長期留学した。ノースセントラル大学は比較的小さい大学で、学習や部活動に意欲的に取り組む学生が多く在学していた。また、キャンパスの真横には通りを挟んでネイパービルという小さなダウンタウンが位置している。そして、全米の中でも指折りの安全さを誇る街として知られている。一方、大学はアメリカンフットボールの強豪校として知られ、2024-2025 シーズンは見事に優勝を果たした。ネイパービルに住む住民、生徒たちはみな人柄がよく、人種差別もされることがなく心置きなく過ごすことができた。いろいろな国からの留学生、バックグラウンドを持った生徒が多く、自分も日本人としての誇りを持ちながらステイを楽しむことができた。

授業は秋学期、春学期を合わせて9つの授業を受講した。アート、スポーツマネジメント、歴史など多岐にわたるジャンルの授業を受け一般教養のみならず、授業を通して人間としても成長することができた。特にライティングのクラスでは授業内の発言のみならず、教授のオフィスに通い、ライティングセンターを訪れるなどしてアカデミックライティングの基礎を多く学んだ。自分から意欲的に、主体的に学ぶ姿勢を持つことで周りの環境に溶け込み、現地学生と同等の頑張りを体現できたと思う。他にもスポーツマネジメントのクラスでは常に教室の前列目に座り、1授業につき1回発言することを意識して受講した。自分の発言は重宝されることがしばしばあり、自分も発言することに対する抵抗がなくなり、意見を述べることに楽しさを見出すことができた。グレーディングを数字で表すことは難しかったものの、自分のなりの努力を積むことができたと思う。

留学では授業以外にもアメリカの文化を学ぶ機会が多くあった。サンクスギビング、クリスマスといった本場アメリカならではの行事の体験や、衣食住に関する文化を肌で体験できたことが一番の収穫といっても過言ではない。特にサンクスギビングのお祝いの時はルームメイトに招待され、彼の家に行き、皆で食卓を囲み豪華な食事を楽しんだ。文化の違いは大きく存在し、中でも年上の人と接する際にも遠慮なく物事をズバズバ言うことには非常に共感できた。日本とは違い年齢に関係なく皆が対等に意見を言い合い、自己主張をする文化は自分に合っているなとつくづく感じた。食文化の違いに大きな驚きがあったが、意外にも米を食べる習慣が根付いていることに驚いた。タコスやボウル、などのメキシカン料理にはもちろん、カフェテリアや他のレストランやファストフード店でもお米が提供されていることはありがたみを感じることも多くあった。

留学中には多くの旅行も同時に経験した。ニューオーリンズをはじめ、サンディエゴ、サウスダコタ、ウィスコンシンなど東西南北、アメリカ大陸を満喫することができた。10月の秋休みに訪れたニューオーリンズはアメリカ南部のルイジアナ州に位置しており、ジャズの創始者であるルイ・アームストロングの出生地としても知られる生粋のジャズの町である。ジャズ好きが高じてニューオーリンズを訪れたが、雰囲気から何もかもがアメリカの象徴である「自由」を体現しており、町一帯が大きな「自由」、というコミュニティとして成り立っており感銘を受けた。ジャズクルージングや、プリザベーションホール（ジャズのミュージアム兼スタジオ）でのジャズの生演奏は魂に響くものがあった。また春学期には、ネイティブアメリカンの衣食住について知りたいという単純な動機から、サウスダコタのラッシュモア山を訪れた。実際に訪れてみると田舎の中にぽつんとラッシュモア山がそびえ、バッドランド国立公園がその周り一帯を囲むようにして広がり、自然と人々が共存している素晴らしい地域であった。ネイティブアメリカンの暮らしも十分に学ぶことができ、単なる旅行ではなく学び、収穫のある旅行だった。

また友人関係についても持ち前のフレンドリーさ、英語力を生かして多くの友人と親しむことができた。日本国旗を持参し帰国前に友人にメッセージを残してもらったが、約70人もの友人にメッセージを書いてもらい国旗を文字で埋め尽くすことができた。これだけの多くの人に支えられ、自分は2学期を過ごせたのだな、と今でも感謝を忘れない。特にルームメイトをはじめ、アメリカンフットボールの部活動に所属する友人とは多くの時間を共にした。誕生日パーティーや普段の夕食、また秋学期にはアメリカを知らない自分に多くのレストランや遊びを教えてくれた。別れ際には寂しい思いをしたものの、今でもほぼ毎日連絡を取るほど仲の良いコミュニティだった。自分は他の留学生とも仲良くしていたが、総合的にみると現地の学生と仲良く時間を共にすることの方が多かった。特にイリノイ州を知り尽くしたアメリカ人の友人には多くの場所へ連れて行ってもらい、アメリカならではの体験をすることができた。深夜に行くマクドナルドやドライブ、ラウンドワンのアーケードで夜遅くまで遊んだ思い出は今でも色あせない。

このように自分が夢に見ていた留學生活は多くの友人に支えられ、環境に助けられ、一生の思い出になった。高校生の時から目標にしていた長期留学を終えて今思うこと、考えることがある。それはもっと国際色豊かな人間になり、世界をもっと知っていくことだ。日本で～ができる、と胸を張って言えても、世界に飛び出したらどうか、英語ができるからすごい、ではなく英語が当たり前でできる世界で何ができるか、が真のスキルだと考える。英語×何か、その何かがこれからの自分たちには必要不可欠であり、「この学生の間に見つけなければいけない」と気づかされた。その中でサッカーを通じて自分の人間力を養えたのは良い経験だった。この留学を通じて英語力が伸びたことはもちろん、人間性や価値観といったものをすべて打ちこわし、世界を知ることができたのは、これからの一生の宝物であり、財産である。世界はアメリカだけではない。もっと世界を飛び回りグローバルな人材として成長しつつ、この留学を活かしてこれからのキャリアを歩みたい。

